

小中一貫教育の推進における「遠隔教育システム」の構築について

現在、小中一貫教育推進協議会・専門部会では、令和7年度からの小中一貫教育の開始に向けて、小中学校教員による乗入れ授業、小小合同事業、小中合同事業などを検討しています。

これまでの検討において、施設分離型・小中一貫教育校（構成校：中山小学校、伊草小学校、西中学校）では、別々の場所でありながら、学校間で連携・交流を図らなければならないので、施設一体型・小中一貫教育校（構成校：つばさ小学校、川島中学校）と比較すると、連携・交流の頻度は自ずと低くなるを得なく、かつ連携・交流にかかる教職員の負担感も少なからずあるという意識が見えてきました。

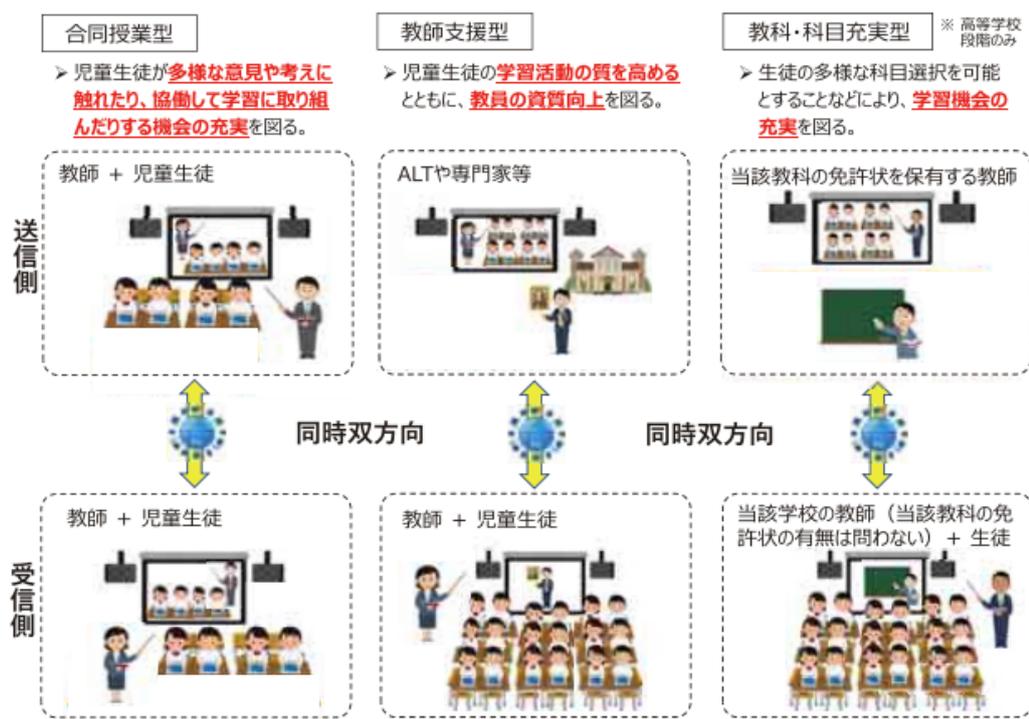
このようなことから、学校間の連携・交流事業の補完と、教職員の移動にかかる負担軽減を目的に、小中一貫教育推進の中で「遠隔教育システム」の構築を検討したいと考えます。

遠隔教育とは

I C T を効果的に活用して、距離に関わりなく相互に情報の発信・受信のやりとりする中で行う同時双方型教育をいい、第3期教育振興基本計画（平成30年6月閣議決定）で、推進を図るとされています。

児童生徒が多様な考えに触れ、様々な体験を積む機会が増えるなど、教育の質の向上につなげることが可能です。また、様々な事情により通学が困難な児童生徒に対しても、学習機会の確保が図れます。

遠隔授業の類型（3タイプ）



1.2 遠隔合同授業とは

遠隔会議システムなどのICTを活用して離れた学校の教室同士をつなぎ、両校の児童生徒が合同で学ぶ授業のことを遠隔合同授業と呼びます。

これからの教育においては、一方・一斉型の授業だけでなく、児童生徒が自ら課題を発見して主体的に学び合ったり、対話や議論を通じて、集団としての考えを発展させたりする協働的な活動が求められています。小規模校や少人数学級においても、遠隔合同授業を行う中で、このような主体的・対話的で深い学びを充実することが期待されています。

遠隔合同授業のイメージ



従来から遠く離れた学校間をつないで行う遠隔授業も実施されていますが、多くの遠隔授業では、離れた学校同士での交流を主な活動としています。一方、遠隔合同授業は、同じ地域内にある近隣の学校同士をつないで授業を受ける児童生徒数を確保し、小規模校や少人数学級のデメリットを緩和・解消することを主たる目的としています。

	従来の遠隔授業	遠隔合同授業
主な活動	運く離れた児童生徒との交流	近隣の学校同士が合同して多人数での授業を実施
実施頻度	イベント的に実施(年に1〜数回程度)	継続的・計画的に実施(1年を通して実施)
期待される主な効果	・他地域のことを知る ・自分の地域のことを再確認する	・多様な意見や考えに触れる ・社会性を養う ・発表する機会を創出する等

遠隔合同授業でみられる主な学習活動

遠隔合同授業は、教室をつなげて多人数で授業を行うことを目的としているため、その中で行われる学習活動自体は普段の授業と変わりません。

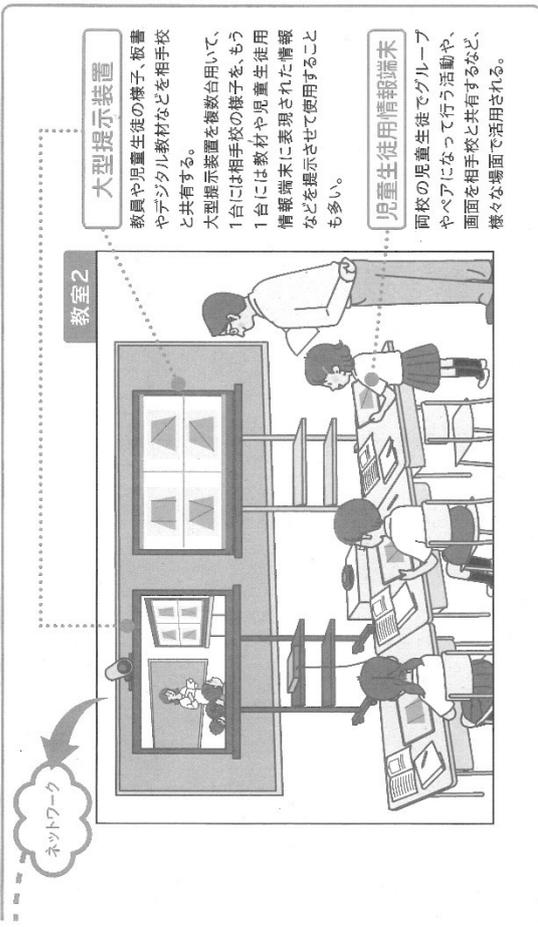
教員の説明や発問 **板書や教材の提示** **全体で行う発表や話し合い**

児童生徒の発表 **児童生徒が自分の考えを発表する。その様子はカメラで撮影されて、相手校にも伝わる**

児童生徒がデジタル教材を共有する **児童生徒も相手校の教員に質問するなど、同じ教室にいるような活動が行われる**

児童生徒が自分の考えを発表する。その様子はカメラで撮影されて、相手校にも伝わる

児童生徒が自分の考えを発表する。その様子はカメラで撮影されて、相手校にも伝わる



教室がつながっている中で普段どおりの授業を行うためには、大型提示装置や情報端末などのICTを用いたコミュニケーション・情報共有が必要です。

グループやペアでの活動 **情報端末の遠隔会議システムを通じて、相手校と一緒にグループを作って、活動を行う**

相手校と小型のホワイトボードを用いた活動を行う

「遠隔教育システム」の構築（案）について

国が進めるGIGAスクール構想の実現によって、学校内のネット環境が拡充整備され、かつ児童生徒1人1台ずつタブレット端末が配備されました。これによって、普通教室においてコンピュータを活用した授業が可能となった一方で、コンピュータ教室においてデスクトップコンピュータを活用する頻度は著しく低くなりました。

このようなことから、①普通教室におけるネット環境、タブレット端末のさらなる活用の促進と、②コンピュータ教室の再整備という2つの方向性で、「遠隔教育システム」を構築したいと考えます。

1. ハード面の整備

(1) 普通教室のテレビモニターの順次更新

現在、各教室に配備されているテレビモニターは老朽化が進んでいることから、今後の児童生徒数を見込みながら、順次、大きいサイズの物に更新したい。

時期（未定）

(2) コンピュータ教室のメディアセンター化（再整備）

デスクトップコンピュータを撤去し、大型スクリーン、プロジェクターを設置するほか、VRゴーグル、3Dプリンターを導入するなどして、メディアセンターを整備するものです。将来的には、STEAM教育（※）の実現まで視野に入れるものです。

時期（予定） 令和7年度・・・中山小、伊草小、西中
令和8年度以降・・・つばさ小、川島中

※ STEAM教育とは

Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学・ものづくり)、Art(芸術)、Mathematics(数学)の5つの単語の頭文字を組み合わせた教育概念。論理的思考力や問題解決能力といった能力を高めることを目的です。

2. ソフト面の研究、検討

(1) 普通教室における遠隔教育について

現在の普通教室に整備されたネット環境、タブレット端末、モニター等の活用を前提とし、以下の事項を検討するものとします。

- ・合同授業（発表会など含む）について
- ・専門家等による学習支援について

(2) (仮称) メディアセンター（コンピュータ教室の再整備後）における遠隔教育について

コンピュータ教室を再整備した後、大型スクリーン、プロジェクター、VRゴーグル、3Dプリンター等の活用を前提とし、以下の事項を検討するものとします。

- ・合同授業（発表会など含む）について
- ・専門家等による学習支援について